

Mr. Bassman (ベースマン列伝) vol.20

ジャズにおいてベース弾きとは、縁の下の力持ち、水先案内人といったやや日陰の存在。おまけに、ウッドベースなら持ち運びも大変……。だが、黙々とベースをウォーキングさせ、バンドをスイングさせることに魂を注ぐベースマンが、一度化けの皮を剥ぐともの凄いな演技・名盤が生まれるのだ。このコーナーでは、そんなジャズ・ベースマンの偉業を称えるとともに、ジャズ・ベースの素晴らしさを伝えていきたい。

Teruo Nakamura【中村照夫】



Photo by Akiyoshi Miyashita

Profile

1942年3月3日東京・神田に生まれる。日本大学芸術学部卒業後の64年5月に単身ニューヨークへ渡る。レジー・ワークマン(b)に師事し、スティヴ・グロスマン(ts)やレニー・ホワイト(ds)をはじめ若手ミュージシャン達との交流を経て、69年ロイ・ヘインズのバンドでプロ・デビュー。その後、スタンレー・タレントイン(ts)のバンドにレギュラー参加するなどベーシストとして腕を磨き、73年に初リーダー・アルバム『ユニコーン』をリリース。また、自己のバンド“ザ・ライジング・サン”を結成し、アルバム制作やライブ活動を精力的に行い、アルバムとシングルは全米チャートでトップ10入りし、79年には日本人として初めてカーネギー・ホールへの出演を果たした。その後もベーシストとしてだけでなく、他のアーティストの作品のプロデュース、92年『10万人リパティー・ジャズ・フェス』、94年ユニセフのための『JAL ジャズ・コンサート』、96年NYに住む日本人を中心とした『JAWS』コンサート、そして、毎年恒例の『エイズ・アウェアネス・Jazzコンサート』や2009年『マウントフジ・ミュージック・フェスティバル』など、大規模なコンサートのプロデューサーとしても活躍。その他にも写真家やラジオ番組のDJの顔を持つなど幅広い活動を展開し、2009年12月には自身の『Cheetah』レーベルをスタートさせた。現在NYハーレム在住。

本場ニューヨークで成功した日本人ジャズ・ベーシストのパイオニア

《名ベーシスト&プロデューサーとして》

長年NYを拠点にベーシスト、プロデューサーとして活躍している中村照夫が単身ニューヨークへ渡ったのは1964年の5月、22歳の時だった。ミュージシャンに限らず今でこそ多くの日本人が海外へ渡る時代となったが、1964年という時代…アメリカのNYという大都市…ミュージシャンとして…しかも、ジャズというジャンルで成功を収めることの難しさは計り知れない。だが、中村照夫がアメリカに渡ったのはベースを弾くためでも、音楽をやるためではなく「何でも見てやろう!」という理由だったそうだが、自分は何が好きかを考えた時に音楽が一番好きであることに気が付きベースを手にしたそうだ。そして、レジー・ワークマン(b)に師事し、69年にロイ・ヘインズ(ds)のバンドでプロ・デビューを果たす。

73年に初リーダー・アルバム『ユニコーン』をリリース後、自己のバンド“ザ・ライジング・サン”を結成するやアルバムとシングルが全米チャートにランクインするという快挙を成し遂げ、79年6月15日には日本人として初めてニューヨークにある音楽の殿堂カーネギー・ホールにも出演を果たした(その時の音源が初CD化されたばかり! ⇒ P11 参照)。音楽ファンならこの人のベースは一度は聴いておくべきで、本来もっと評価されるべきベースマンだと思っている。そして、プロデューサーとしてのバイタリティー溢れる存在感・行動力は現代の日本の若い人達にもぜひ注目してもらいたい!

リロイ・ヴィネガーとの親交

中村照夫は本誌『The Walker's』由来の“ウォーキング・ベースの職人”リロイ・ヴィネガーとも親交が深く、1990年には中村プロデュースの2作品(右頁参照)で顔を合わせている。ジャズ・ベースマン同士ということもあり、互いに尊敬し合う仲であったようで、1995年に筆者がポートランドでロイ・ヴィネガーと会った時に2人の共演作である菅野邦彦の『エスタテ』(右頁参照)の話題となり、その会話の中でリロイが満面の笑みを浮かべながら「Oh! Teruo! He is crazy!!」(勿論、面白い! 最高! という意味で)と語っていたのを思い出す。

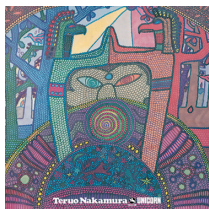
レッド・シューズ・ファンデーション& Cheetah レーベル

中村照夫が牽引する日本の童謡『赤い靴』に由来する『RSF=Red Shoes Foundation』(非営利の任意団体)【<http://www.redshoesf.com/>】は、芸術の力による社会貢献を果たすべく、コンサート・イベントを通じて人々が心の潤いを持ち、心の通いの中から新たな価値観を見つけ出そうという使命のもと、毎年『エイズ・アウェアネス・Jazzコンサート』等の活動を続けている。また、中村はクラブ・ジャズ・シーンとリアル・ジャズを繋ぎ、NYの“今”を伝える唯一無二のレーベルは「Cheetah レーベル」を新たにスタートさせた!

TN's Great Album

下記 3 作品以外にも『Rising Sun』『Song of The Birds』『Roote 80』『Big Apple』『Wind Smile』『New York Dially』等、他のリーダー作品もぜひ聴いてみたい！

リーダー・アルバム！



ユニコーン 中村照夫

(ソニー・ミュージックダイレクト:MHCP-10026)

中村照夫 (b), スティーヴ・グロスマン (ss, ts), チャールズ・サリヴァン (tp), ジョージ・ケイプルス (p), 他

1. ユニコーン・レディ 2. アンダスタディング
3. サム・アザー・ブルース 4. ウマ・ビー・ミー
5. ニュー・ムーン 6. デリックス・ダンス

全米チャートを席巻した名盤！

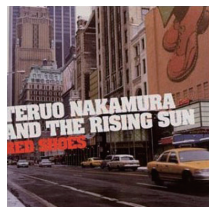


ソング・オブ・ザ・バード 中村照夫 & ザ・ライジング・サン (キティ・エンタープライズ:UCCJ-4093)

中村照夫 (b, harm, key, per), シロー・モリ (g, key), ハリー・ウィテカー (p), マーク・グレイ (p, key, org), 他

1. マンハッタン・スペシャル 2. レインボー
3. メスカリット 4. ファイヤーフライ
5. ウィグル・ウォーム (他、全 8 曲)

& ザ・ライジング・サンとの快作！



レッド・シューズ 中村照夫 & ザ・ライジング・サン (エイベックス・トラックス:AVCD-11850)

中村照夫 (b), スタンリー・タレントイン (ts), トム・ブラウン (tp), ヒューバート・ロウズ (fl), フレッド・ウエズリー (tb), 他

1. アイヴ・ガット・ユー・オン・マイ・マインド
2. ブッシュマン・ソング 3. ライジング・サン
4. アイ・フィール・ユア・ラヴ (他、全 9 曲)

1973 年 5 月 18 日と 6 月 8 日に NY で録音された中村照夫の記念すべきリーダー作品！アコースティックとエレキを巧みに弾き分ける中村のベースも最高で、S・グロスマン (ss, ts), G・ケイプルス (ep), L・ホワイト (ds) 等も名を連ねる。中村のオリジナル「ユニコーン・レディ」がオーブニングを飾り、コルトレン作の「サム・アザー・ブルース」や S・グロスマン作の「ニュー・ムーン」など全 6 曲を収録。黒くてファンキーで、70 年代前半のまだ危険な雰囲気がかんぱんと漂う NY のパワーも感じさせてくれる！

中村照夫 3 枚目のリーダー作で、『ライジング・サン』に続く自己のバンド「ザ・ライジング・サン」との第 2 弾。録音は 1977 年。米ボリドールより現地で『Manhattan Special』というタイトルに別ジャケットでリリースされ、当時ビルボードの全米アルバム・チャートでトップ 10 入り、シングルカットされた「マンハッタン・スペシャル」はキャッシュボックス誌のジャズ・チャートで最高位 9 位を記録した！ハービー・ハンコック等のゲスト参加も興味深い、中村のベース & 曲のカッコ良さは今でも全く色褪せていない。必聴！

2001 年に録音された現時点での中村照夫の最新アルバム。アルバム・タイトルでもあるレッド・シューズの看板も写る NY の街並みを用いたジャケット写真もとても印象深い。ジャズにヒップ・ホップ、ファンク、R&B やワールド・ミュージックの要素を取り入れたサウンドも長らく NY を拠点に活動している中村照夫ならではの、現代のジャズの姿を見事に表現している快作！尚、この作品がスタンリー・タレントイン (ts) にとって最後の吹き込みとなったことも注目に値するが、中村のベースも相変わらずファンキーだ！

TN's Support Album

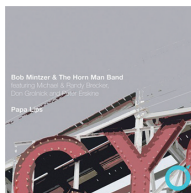
他のアーティストのアルバムにベースやパーカッションで参加することは勿論、プロデューサーとしても多くの名盤を生み出している。そのプロデュースの手腕にも要注目！



シュガー・ロイ ロイ・ヘインズ

(キティ・レコード:KTCR-1168)

中村照夫がプロデュースした名ジャズ・ドラマー、ロイ・ヘインズの快作！トミー・フラナガン (p) とロン・カーター (b) とのトリオ作品。1976 年録音。



Papa Lips Bob Mintzer & The Horn Man Band (Explore Records:EXP-0020)

中村照夫がプロデュースした多才なサクソフォーン奏者ボブ・ミンツァーの作品。D・サンボーン、ブレッカー兄弟等 21 名が参加。1983 年録音。



The Shadow Joe Lee Wilson

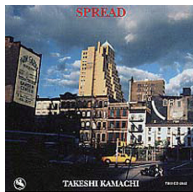
(Explore Records:EXP-0025)

中村照夫がプロデュースしたロフト出身の魂のヴォーカリストジョー・リー・ウィルソンの作品。ベースはロイ・ヴィネガーが担当。1988 年録音。



エステ 菅野邦彦 (ボニーキャニオン:PCCY-127)

中村照夫がプロデュース & ベースで参加した天才ピアニスト菅野邦彦の作品。リロイ・ヴィネガーも中村と共にベースで参加！1990 年録音。



スフレッド 蒲池猛

(スリー・ブラインド・マイス:TBM-CD-2842)

中村照夫がプロデュース & ベースで参加した元シャープ & フラッツのピアニスト蒲池猛 (ジョー・蒲池) の初リーダー・アルバム！2001 年録音。



ブレイド・ライト ビル・ウェア (ボニーキャニオン:PCCY-30151)

2009 年 12 月に中村照夫がスタートさせた『Cheetah』レーベルの記念すべき第一弾作品となったビル・ウェア (vib) の最新作！2009 年録音。